

## ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	養護学校教員養成をめざした教育実習のあり方
Author(s)	甲斐, 邦子
Citation	教育研究所紀要(24): 11-18
Issue Date	1992
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10109/8514">http://hdl.handle.net/10109/8514</a>
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係  
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

## 養護学校教員養成をめざした教育実習のあり方

甲斐邦子\*

附属養護学校の使命として「精神薄弱者教育の理論及び実践に関する研究と、学生の教育実習を行う等、特別な役割をもって設置された学校である。」とうたわれている様に、本校の学校教育の中で教育実習は大きな位置を占めている。

教育実習を通して「立派な教師に育ってほしい」との願いをこめ、全教職員が総力を上げ教育実習生の指導に携わって来ている。時代の要請として、新任者研修・現職教員の再教育が叫ばれている今、ここで附属校としての教育実習のあり方を考え検討することにより、更に望ましい教育実習が実施できると考える。

### 1 養護学校の特性を生かした教育実習

#### (1) 附属校のあり方

教育実習終了時、「ぜひ養護学校の先生になりたい。社会教育の中で障害児教育に携わって行きたい。」等の言葉がよく返ってくる。4週間指導した教師にとっては、うれしいことであり、指導者としての満足感も味わう。

しかし、4週間（障害児学科4年次生）の実習期間中での指導はおのずと限定され、障害児教育の現場における内容のほんの一部しか触れられないのも確かである。また、障害児教育の全体に触れ見通すこと等は不可能に近い。更に、これらのことに関しては、教師となり子供の前に立った時理解することも多し、毎日の経験の中で学んで行くことも多いはずである。

そこで、限られた実習期間の中で、附属校として何を指導すべきか、4週間の主専攻生の実習計画、目標、指導内容、授業（教育実習生※文中では教生と略して表記する）等を再検討すると同時に、4週間の実習期間中での教生の意識の変容を履修簿等より追って見ることにした。

#### (2) 養護学校の特性を生かした実習内容とは何か

4週間の教生は、3年次生の時に附属小・中学校で基本実習を経験してきており、教育実習に関する基本的内容についてはマスターしてきているはずである。そこで、養護学校でしか出来ない実習の内容は何かをあげてみた。また、それが養護学校の特性を生かした教育実習のはずである。

- ① 精神薄弱を主たる障害とし、諸障害を併せ持つ児童生徒とのかかわりと実態把握
- ② 学部編制と学級編制
- ③ 複担任制とチームティ칭ング等の指導体制
- ④ 個別、能力別、縦割りグループ等の指導形態
- ⑤ 小・中・高等部の一貫教育の内容と児童生徒の成長発達の様子

---

\* 茨城大学教育学部附属養護学校

- ⑥ 教育課程の編成と内容（教科・特別活動・合科統合された内容＊生活単元学習，日常生活の指導等）
- ⑦ 日課と週日課，一日の生活の流れと週のリズム
- ⑧ 学習指導案（単元・題材設定の理由，児童生徒の実態）
  - ・児童生徒の実態に応じた指導内容と留意事項
  - ・経験の場を主とした活動内容
- ⑨ 教師としての姿勢，勤務の内容
- ⑩ 学部・学校行事
- ⑪ 保護者への連携とかかわり，PTA活動
- ⑫ その他

上記の様なことが掲げられる。特に①～⑧項の内容については，教育実習の中で学んで欲しい内容である。一つの項目を取り上げてみても多くの内容が含まれ，実習の中で，どれだけ具体的に且つ深まりのある指導が出来るかは難しい。しかし，指導上では重要な内容でもあるので，要点と概略だけは押えて指導している。（事前オリエンテーション，実習中の全体講話と学部講話等）

### (3) 実習計画－全体－

指導内容を効率的に且つ効果的に指導するために，実習前・実習中・実習後の3つの時期に分け，重点的に指導する内容を決め実習計画の立案作成に当たっている。（教育実習主任が中心となる）

#### ア 事前オリエンテーション

実習開始前（1～2週間前）に養護学校において実施し，学校の概略についてあらしめ解り，実習に臨む意欲や心がまえをつくることをねらっている。

内容○学級配当発表（○学部，○組，担任○○等）

○講話・大学担当教官（実習の目的と基本的心がまえ）・学校長（学校経営，養護学校の教育）・副校長（学校概要，県内特殊諸学校の現状）・実習主任（実習計画，心がまえ，諸連絡）

○全体面接（部・担任紹介，実習生代表挨拶）

○学部・学級指導

#### イ 実習時（全体講話と指導，開始式，終了式，反省会，授業研究と反省会，1日経営）

全体講話を実習初期に集中させ，前述(2)①～⑫の項について具体的に且つ要点を押さえ説明することにより，学部・学級での実践に結びつけて行くことができるようにする。また，全体での共通理解を図ることにより実習の系統性と統一が保てるようにする。

内容○講話・教務部長（養護学校教師に期待されるもの）・小・中・高等部主任（学部経営）  
・研究主任（本校の研究）・進路指導主事（進路と現場実習）・養護教諭（保健室の役割）

各学部の全体指導・学級指導の内容については，各学部の主体的計画により立案実施される。特に前述(2)①③④⑥⑦⑧の内容が具体的に実践例に基づき指導される。それぞれの内容については，具体的に段階を追って4週間間に繰り返し指導に当たる。

内容○講話・学部主任，各教官が分担して行う（実習計画の概略と心構え，観察・参加・授業者の役割・履修等の書き方，授業計画，各学級の実態と学級経営，指導案の書き方，教

育課程，教育研究，1日経営等)

- 学級指導，授業の指導は担任または授業担当者が主に指導する（児童生徒の実態，授業観察，教材研究，指導案作成，授業実践と反省，かかわり方等）
- 教育実習生一斉研究授業がまとめの意味も兼ね第4週目に実施される。各教生の授業を大学担当教官，本校教官，学部教生等に公開し指導を受ける。各学部研究授業反省会においては，授業ばかりでなく，(2)①～⑫までの内容についても含めて指導をする。
- 全体反省会を最終日前日に行い，各自が実習を通しての感想を発表することにより，教育実習をやりとげた事に対する意識と今後の課題を明確にさせる。

ウ 実習全体計画

<表1 実習全体計画>

平成3年度 基本教育実習全体計画

茨城大学教育学部附属養護学校

週	目標	月日	行事等	講話等	課外(各学部)
第 一	○学級や部の児童生徒の実態を把握し，目的をもって教育実習に臨むことができる。	5/20 (月)	実習開始式 9:10 <教>	教務部長・各学部主任・ 養護教諭講話12:50	学習計画の立案 観察 履修簿の書き方について
		21 (火)	<推>		学級の実態 授業計画 指導案の書き方
		22 (水)	精神検査 <部>		教材研究
		23 (木)	レントゲン検査 <全研>		授業開始(反省)
		24 (金)	内科検診 <校分>		
		25 (土)			
第 二	○指導過程の研究と基本的指導技術の理解を深めることができる。	27 (月)	全校朝会 <教>		
		28 (火)	高等部校外学習 <職研>		
		29 (水)	運動会予行 <部>		
		30 (木)	<研>		
		31 (金)	創立記念日		
		1 (土)	運動会準備		
第 三	○実態を把握し，課題をもって，実際の指導をすることができる。	2 (日)	運動会		
		3 (月)	振替休日		
		4 (火)	プール清掃 <職作>		研究授業の計画
		5 (水)	日本脳炎予防接種 小4 中2 <部>		
		6 (木)	<研>講話会		
		7 (金)	<運>		
8 (土)				3週間のまとめと反省	
第 四	○実習の成果を結集させ，研究授業に臨みまとめをすることができる。	10 (月)	プール開き		研究授業の準備
		11 (火)			研究授業の準備 斉研指導案作成
		12 (水)	斉研 <部>		研究授業の準備(部)
		13 (木)	眼科検診		研究授業の準備
		14 (金)	斉研	全体反省会 4:00	研究授業・反省会(部) 学部反省会(各部)
		15 (土)	実習終了式 9:10		控室・備品・教科書等の 整理・履修簿のまとめ等

< >は教官の諸会議

エ 事後 履修等、レポートの提出により4週間のまとめと反省、今後の課題を再認識する。

以上のような実習計画に基づき指導にあたるが、(2)①～⑫の指導の全内容についての徹底した指導は難しい状態である。当然マスターしてきているはずの基本実習(3年次)の内容等についても、再指導し養護学校実習にどう生かして行くとよやかに気づかせ、授業等の指導が始まる。また、教生の意欲や教職を希望するかどうかによっても微妙な較差が出てきている。

#### (4) 4週間の中での変化

4週間の実習の中で、教生のものの見方、考え方はその都度変化し、それぞれの場面において適応して行っているが、6時間以上の授業をどのように消化するかに束縛され、それだけに捕えられてしまうことも多い。「子どもを知ろう」と1週間目に余裕を持って臨んでいたのが、授業が始まったとたん、「指導案、指導案」と指導案の作成のみに心をうばわれてしまう。1時間の授業をするためには、数時間以上の準備の時間を要することも確かである。学校として、この件については、検討する必要がある課題でもある。

## 2 養護学校で求められる教師像

### (1) 教育実習の中で教育実習生

－6時間以上の授業を行う－簡単に計算すれば、第1週目に1時間・第2週目に2時間・第3週目に2時間・第4週目に1時間の授業を実施すればよい訳であるが、現実には難しい状態にある。指導案作成に注がれる労力は大きい。そのため最も大切な目前の子どもの姿を把握し、じっくり見つめることができず、授業のための実態把握だけの狭いとらえ方になってしまう。

特に、この障害児教育においては、子どもとのかかわりにおいて「子どもを知る」ことが最も大切である。生の子どもの姿(実態)をつかむことにより、多種多様に变化する子どもの動きに対応でき、指導に結びつくのである。その意味でも、今、学ぶことは何かを広い視野に立って受け止めさせたい。

また、実習を通して どんな子ども(児童生徒を総称して、一子ども一の表現を文中で使う)にも、かかわることができ、対応した指導のできる教師としての意欲と基礎基本を指導するのも、附属校の実習のはずである。実習開始時に教生に対して「自分の目で確かめ学び取って行くことが多くあります。また、教師として、どんな時にも子ども側に立ち判断した上で指導にあたって下さい。子ども達を暖かく見守って下さい。」と言葉をかけて来たが、ここで更に「子ども達にとって望ましい先生とは、どういうことか」「養護学校教師として望まれる教師とは何か」を本校の子どもの実態と重ね合わせあげてみた。更に文部省の初任者研修で「新任教員の時期が、教育の自覚を高めるとともに、円滑に教育活動に入り、可能な限り自立して教育活動を展開して行く素地を作るうえで極めて重要である。」意図の基に実施されて来ていることも合わせ、教師像を追求してみた。

### (2) 望ましい教師像とは何か

子どもにとって望ましい先生

ア子どもの側、教えを受ける立場から見た時、子どもそのものを受け止め理解してくれることのできる教師であれば、種々の障害や伴う問題等を踏えた指導、すなわち個に応じた指導が出来るはずである。

- ・明るく穏やかで元気である。(健康)
- ・一緒にいろいろなことをしてくれる。(指導)
- ・行動や訴えを受け止め理解してくれる。
- ・社会自立に向け、見通しを持ち指導してくれる。
- ・褒める、励ます、叱る、見守る、待つ等を場に応じてしてくれる。
- ・困った時には助けてくれる。

#### イ教師から見た期待される教師像

情報化時代と言われ、多くの情報が氾濫し目まぐるしく社会情勢が変化している現代において、普通教育はもちろん障害児教育においても、教育観、価値観の変化が見られる。それが子どもの見方考え方、すなわち価値観に及ぼしていることも事実であり、それに伴い教師に対する要求や期待も変わってくる。しかし、子どもに対し指導し教育する本質は不変であるはずである。そこで教師に要求され期待される内容そのものが、教師としての資質であり望ましい教師像と結びつくはずである。

- ・教師としての基礎的能力と知識を兼ね合わせ持っている。
- ・リーダーシップがとれ、指導力がある。
- ・時代の流れを読みとり、適応した教育技術の習得ができる。
- ・学級経営に創意工夫ができ、子どもの実態に応じた指導ができる。
- ・心理面、知的面、身体面、体力面での発達が的確に把握でき、総合的に子どもが見られる。
- ・教育と医学、心理学等の知識を理解し、相互関係に立った指導ができる。
- ・研究・研修活動に意欲を持ち実践できる。
- ・子ども・保護者・教師間・社会の人々等と信頼関係が保てる。
- ・その他

以上の様な内容を列記したが、その他考えられることが多くあるはずである。また上記の内容が全部達成できなければ教師として不適格であるとは言えないし、全部が達成できていても立派な教師であるとも言えないこともある。そこに心が加わってこそ教師うんぬんが言えるはずである。

#### ウ障害児教育における教師像

特に障害児教育においては、子どもの側からの教師像(2)①と教師として期待される教師像が重ね合うことも重要である。また①②の土台となるものが必要であり、それが、教師自身の教育に対する意欲、向上心、研究心等を育む豊かな人間性、すなわち人間そのものだと思う。更に指導技術、資質、心が一つになった時すばらしい教育ができるはずである。

### 3 教育実習場面から見た実習生の変容

#### (1) 履修簿等から見た教生の意識の変容(感想)第1日目を中心に

前項で望ましい教師像、教師に要求される資質等について述べたが、実習の初日と最終日の履修簿の反省の記録欄から意識の変容の様子を追って見た。

##### ア実習第1日目

全員が不安と緊張を訴えている。表2からも解るように、学部により緊張不安の度が違うこ

とである。子どもの行動そのものに目が行ってしまう小学部。学習内容や指導場面に目が行く中学部。学習態度や授業の形態や内容に注目する高等部。それぞれの表現の方法は異なるが、学部の特長や児童生徒の実態に気づき、一人一人が心まがえを持ちのぞんでいる。

イ各学部教生履修等より感想部分の抜粋（各学部一例）

- 小学部A教生 始めは話しかけても答えてもらえず、何度も何度も言葉がけしたが、目の前をさっと走り抜けて行くだけ、どう接して良いのか解らなくなり戸惑ってしまった。ただ子どもを見ているだけ、近くにいるだけの1日になってしまった。明日は積極的に接して見ようと思うが不安である。
- 中学部B教生 時間になると誰も何も言わないのに、教室に集まり待っている姿に驚きました。しかし、授業中での能力差があまりに大きいのに戸惑いました。身辺処理の介助を必要とする子、知的学習の成立する子、皆違います。何をやったらよいのか、何を見たらよいのか解らず混乱状態だ。
- 高等部C教生 開始式で学部の違いに驚いた。一瞬もじっとしていない小学部、それに比べ高等部の生徒は整列し校歌も上手に歌っている。「先生、住所は～」等と生徒から近づいて来る。素直で明るい姿がうれしい。しかし、作業学習の参観では能力差に気づかされた。また指導面での教師の専門性が要求される。指導できるかどうか不安である。

ウ学部による不安・緊張は何か、履修等より拾い出して見た。

<表2 各学部の緊張・不安要因>

学部	不安・緊張の要因	主な要因	解決のきっかけ
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉が少ない, 出ない, 反応が少ない</li> <li>・動きが活発である, 目が離せない,</li> <li>・集団がバラバラ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態</li> <li>・コミュニケーションのとり方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの動きとかかわりによる。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺処理, トイレの介助</li> <li>・自己中心的動きと反応, 個の世界</li> <li>・授業, 教科指導, 能力別指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の能力差</li> <li>・授業の難しさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教官との話し合いや授業観察により, 対処方法に気づく。</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通児との比較, 情緒の偏り, 行動</li> <li>・指導内容の専門性</li> <li>・将来を見通した指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の違い, 多様化</li> <li>・授業と専門性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と一緒に生活する。</li> <li>・慣れる。</li> </ul>

(2) 教生の意識の変容（感想）第4週目実習最後の日を中心に

ア実習終了時の感想（第1日目の記者と同じ）

- 小学部A教生 4週間毎日が充実しておりました。子どもと一緒に生活する中で、少しずつ様子も解り、自然にかかわれるようになりました。他学級の子とも言葉がかわせるようになり、時間がもう少しあったらと思うと終りが残念です。
- 中学部B教生 この実習が、少しでも子どもにとってプラスになり、指導したことが栄養となり成長の芽が育まれ育ってくれればと思います。「教育の成果を早急に求めることは難しいが、時間をかけ育って行く。」と言って下さった意味がやっとわかりかけてきました。子どもの成長が楽しみです。
- 高等部C教生 高等部の子ども達のかかわり合いの中で、何か自分の中で変わったものがあると思います。素直で純粋な子ども達にも、すぐに社会生活が待っており、受け入れられる内

容、場面ばかりではないようです。自分の教育に対する課題が多く残ってしまいました。

イ学部による感想の違い

<表3 実習終了時の感想>

学部	まとめと感想	感想の特徴
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの日々の変化をみた、成長が楽しみ、どのように成長して行くか気がかり、笑顔が心を打つ、個性的、別れの意味がわからないさびしさ。</li> <li>• 自分の力を出しきった満足感、充実、子どもが理解できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもの活動・生活の中の成長のすばらしさと、教育による子どもの変容を認めた。</li> <li>• 教育の可能性に気づく。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今までになく大切なものを学んだ、貴重な経験、自分に残ったものは何かを知った。</li> <li>• 子どもの純粋さ、子どもの力となれたか。</li> <li>• 教師の立場を知った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教生自身が子どもの中から学んだ。</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実態把握の大切さ、親しみのあるかかわり方とは何か、心の通い合い。</li> <li>• 素直な感情表現、暖かさ、会話の成立、意思表示ができる。</li> <li>• 社会参加にむけての不安、自立とは何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教生と子どものかかわり合いが持てた。</li> </ul>

ウ各学部による感想の違い

各学部間の児童生徒の発達の差による受け止め方の違いは大きいですが、4週間の実習の中での子どもとのふれ合い、かかわり合いの中で学んだ人と人との絡がり、暖かさ、やさしさ、子どもの将来に対する期待と不安、教師としての人間性については、教生全員が何らかの形で受け止めている。最終的には、本人の意欲と豊かな人間性がすべての根底になっているようである。

○小学部 登校から下校まで一瞬の動きにも目が離せず、姿を追いかけている中に、子どもの成長の可能性と教育による変容に気づいている。

○中学部 集団参加を主とする小学部と社会参加をめざした高等部との橋渡しの位置にあるため生活や教科の指導が主となるため、到達目標に達することが難しく、何を学ばせたかの充実感が味わえないため、何を学んだかに注目しがちであること今後の課題である。

○高等部 コミュニケーションの取りやすい生徒とのかかわりを持ったことにより、お互いの人格に触れ理解できただけに、子どもの将来の不安を感じている。

### (3) 実習全体のまとめ（レポート内容）

実習のまとめをレポートを中心に分析して見た。児童生徒の実態に関する内容、指導に関する内容、教師としてのあるべき姿等に分けられる。表4参照（P18）

## 3 教育実習に期待されるもの

(1) 教生自ら意欲的に学び、教職に対する専門知識・技術を身につけると同時に、自己研鑽を積む態度を学びたい。技術的内容は経験によりマスター出来るが、教育内容については、専門的学問的内容を研修する必要がある。発達段階に合った系統的指導をするためにも、各教科等の深みのある知識が要求される。そのためにも自己研修の必要性に気づかせたい。

(2) 常に広い視野に立ち総合的に判断できることは見通しを持った指導、12年間の教育課題でもある。全体と部分を把握できる目を育てる。

(3) 自分の個性を生かした指導ができるよう、自己を高められるよう努力する態度を育てる。望ま



しい教師像，期待される教師像は，社会の変化や要請によっても，価値観や評価の基準が変わってくる。しかし，教師自身の豊かな人間性において対応できるはずである。望ましい教師像を育成する大切なキポイントである。

- (4) 教育実習生を指導する指導教官の専門性，附属校での指導体制等に期待されることは多い。やはり，指導者自身の資質の向上と指導力の確かさが，更に要求されることは確かである。年3回の教育実習を通し，教師自身が教生を指導することにより，学ぶべきことも多くある。そこで，望ましい教師像を育成するためにも，附属校の役割りを再考し，教師自らが資質の向上をめざして研修を積む必要がある。

〈表4 実習のまとめのレポートから見た傾向〉

学部	児童生徒の実態に関する内容	指導に関する内容	教師としてのあるべき姿
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども一人一人に個性がある。</li> <li>○それぞれがそれなりに一生けんめい学習している。</li> <li>○場における反応を把握すること，行動の理解をするのが難しい。</li> <li>○動きが激しい。</li> <li>○表情や態度での訴え場面が以外に多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何を指導すればよいのか多すぎて絞れない。</li> <li>○何が必要なのか総合的に判断しとらえる能力が要求される。</li> <li>○段階を追った指導内容を押さえるべきである。</li> <li>○一つずつ着実に身につけさせる必要がある。</li> <li>○くりかえし時間をかけての指導の大切さを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○親の役割，教師の役割の違い</li> <li>○教師の仕事内容が多分野に渡り，研究態度や意欲が大切。</li> <li>○一日一日が緊張の連続である。</li> <li>○普通教育にかかわる人達も養護学校教育を知る必要がある。</li> <li>○教師の明るさ，柔軟性が要求される。</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級単位で生徒のまとまりがある。</li> <li>○友達意識を持ち，友達の動きが気になる。</li> <li>○自分の力で場面に適応しようとする気持ちがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導案の立案に大変努力を要する。</li> <li>○教育の最終目的ねらいは何かが大きすぎると思う。</li> <li>○今指導すべき内容は何かを見きわめたい。</li> <li>○生活面での生きて力をつけるためにはどうするか。</li> <li>○チームテイチング，複担任制の指導は能力差に応じた指導ができる。</li> <li>○集団編製の工夫が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かかわりの中で本当のやさしさは何か追求したい。</li> <li>○くりかえしの指導の中での創意工夫が大切である。</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の個人差が大きく，能力の違いがはっきり表われてきている。</li> <li>○高校生として扱われることへの満足感がある。</li> <li>○精神面と身体面での発達のズレが大きく，幼稚な行動をとることが多い。</li> <li>○知的能力の偏りと能力のアンバランスが目立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来を考えての課題学習の大切さがわかった。</li> <li>○社会自立のために何を指導すべきか難しい。</li> <li>○生きることのきびしさ，学校の場は恵まれている。</li> <li>○各障害をのりこえるために必要なのは何か。</li> <li>○社会適応のための躰のきびしさが必要である。</li> <li>○小・中・高教育内容の一貫性</li> <li>○必要とされる教育内容は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の責任の重さ。</li> <li>○見通しを持った指導ができる力を持つ。</li> <li>○指導内容を適格に見分ける力を持つ。</li> </ul>

## 引用文献

○文部時報（文部省H2・1 No.1356）